

日照不足及び大雨に対する農作物の技術対策

令和7年6月13日
山口県農林水産部

I 水稲

1 分けつ抑制回避

日照不足や深水による分けつ抑制・徒長を防ぐために、大雨があっても浅水状態となるように、排水口の調整を頻繁に行う。

2 除草剤効果確保対策

除草剤の処理時期(雑草葉齢)に注意するとともに、気象予報を考慮し、除草剤散布後の田面水がオーバーフローしないようにする。

3 病虫害防除

長雨日照不足が続く場合には、いもち病が発生しやすくなるので注意する。
補植用の置き苗はいもち病の発生源になるため、補植後は直ちに処分すること。

II 麦

1 収穫用コンバインの手配

収穫作業が短期間に集中すると予想されることから、乾燥・調整施設及びコンバインの手配等、事前に収穫作業体制を整備しておく。

2 品質・収量の確保

既に成熟期を迎えたほ場が多いことから、梅雨の晴れ間での速やかな収穫作業を行う。

また、収穫は、穀粒水分28%以下が望ましいが、高水分での収穫となった場合には、刈取後4時間以内に通風乾燥を開始する。

III 大豆

1 事前排水対策

降雨後の速やかな排水を可能とするため、額縁明きよやほ場内に排水溝を設置し、播種作業ができるだけ計画通りに実施できるように準備しておく。

2 発芽苗立ちの確保

(1) m²当たり苗立ち数が15本以上確保できるように確実に播種を行う。特に、播種機の設定調整(深度、覆土)に注意するとともに、実際の播種量を確認し、繰り出し量の調整を入念に行う。

(2) 播種後に冠水すると出芽が著しく劣るので、播種直後に畦間の排水溝を連結し、降雨が滞水せずに排水できるようにする。特に、長辺が長いほ場では、中央部を横断するような溝を設置し、額縁明きよに連結する。

3 雑草防除対策

土壌の水分状態が高いと大豆の出芽が早まるので、播種直後の除草剤処理を基本として、散布が遅れないように注意する。

IV 露地園芸（野菜、花き）

1 排水対策、ほ場の改善

- (1) ほ場の周囲に明きよを設置し、排水口とつなげ、速やかなほ場内の排水に努める。
- (2) 畦間の滞水によりポリマルチをした畦内が過湿状態になった場合は、マルチをめくって土壌を乾かし、畦内の通気性を高める。
- (3) 土砂が流入し株元が埋まった場合には、土砂を除去し、流入堆積した表土が乾いて固くならないうちに中耕して通気を良くし、乾燥を促す。
- (4) 大雨に備えて、排水口の点検やほ場周囲の明きよを設置する。

2 作物の生育改善、病害対策

- (1) ほ場に浸水した場合は、速やかにほ場外に排水する。
- (2) 雨水により根が露出したり、株元がぐらつくものは軽く土寄せを行う。
- (3) 下葉除去や摘果により株の負担を軽減し、草勢回復を図る。
- (4) 風雨による傷口から病害が発生しやすいため、不要な下葉を除去して通風を図り、速やかに適切な薬剤散布を行う。
- (5) 浸水被害が大きく、生長点付近まで泥汚れが付着している場合は、水で洗い流す。ただし、下位節の汚れであれば、洗い流しはやめて土壌乾燥を優先させる。
- (6) 土壌条件の改善後に、草勢回復のため液肥による追肥を実施する。
- (7) 冠水等により生育の回復が期待できない場合は、できるだけ早く蒔き直しを行うか、他の作目への作付転換を検討する。
- (8) リンドウは、不要な下葉や細い枝を除去し、株元の通風を図る。また、特に収穫前の株は茎葉が繁茂しているため、降雨後の薬剤散布等により病害防除に努める。
- (9) ナスやキュウリ等の果菜類について草勢の衰弱した株では、果実の若どりや摘果（花）を行い、草勢の回復を図る。過繁茂した茎葉は間引くとともに、下葉や病葉を除去して通風をよくする。

V 施設園芸（野菜、花き）

1 排水対策

ハウス内に浸水しないように、ハウス周辺に明きよを設置する。

2 作物の生育改善、病害対策

- (1) 病害の発生や作物が軟弱徒長になるのを避けるため、ハウス内の湿度を下げるため換気を行うとともに、循環扇等を活用し湿気が停滞しないようにする。
- (2) 降雨が続くと病害が発生しやすくなるので、雨上がりには防除を徹底する。降雨が続く、病害が蔓延を始めるようであれば、雨の止み間に防除を行う（雨間、雨中散布）。
- (3) トマト等については、下葉や病葉等を除去し、通気を良くするとともに、草勢維持のため適正に摘果を行う。

VI 果樹

1 排水対策

園内に滞水することで根痛みの発生が懸念されることから、排水溝等により雨水を効率よく園外に排出できるようにする。

2 新梢管理等による日照改善

日照不足による果実肥大不良、品質低下が懸念されるため、新梢の誘引やシルバーマルチ等による樹冠内の日照改善を図る。

3 適正着果量の確保

果実肥大不良や生理落果が懸念されるので、落果等の推移を見ながら、適正着果量の確保に努める。

4 病虫害防除

気象情報に留意し、防除暦を参考に防除間隔が空かないよう防除を実施する。散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず、降雨前に散布する。

5 生理障害への対応

ナシの水浸状果や花芽着生不良、ブドウの縮果症等の生理障害の発生が懸念されるので、排水対策や日照改善等に努める。

6 水害への対応

- (1) 浸水園では早めに排水に努めるとともに、堆積土のある場合は早期に除去する。
- (2) 根が露出している場合は早急に覆土する。
- (3) 樹体に付着した泥は速やかに洗い落とす。

VII 飼料作物

1 全般

- (1) 軟弱に生育して倒伏し易くなったり、湿害による収量低下となるので、ほ場周囲の排水溝を掘り、排水対策に努める。
- (2) 倒伏又は湿害により生育の見込みがないものは、早期に刈り取り給与するか又はサイレージ、乾草等の貯蔵飼料として利用する。また、発芽不良や再生見込みがない場合は再播種する。